

2022 年度北海道合同教育研究集会 第 15 分科会まとめ

共同研究者 早矢仕郁雄
(礼文町立礼文小学校)

レポートは 3 本であり、司会者・共同研究者を除いた参加者は 4 名であった。学校事務職員の参加が多く、教員は 1 名のみの参加であった。教員や学校教職員ではない方の参加もあるとより議論が深まると思われるが、これは翌年度以降の課題となろう。レポートの内容は 3 本ともバラエティに富んだ内容であった。以下、レポート概要と討議・交流内容の一部を記す。

1 「苫小牧での「子どもたちの幸せを願う教育の会」の取り組み」

報告者 道高教組苫小牧工業高校分会 横山 傑

2013 年の道教委からの「学校における国旗及び国歌に関する指導」を代表とする学校現場への指導・強い締め付けの中、道労連から各地区労連に対しての「教育現場を支えるために地域の教職員組合と共同し運動を進めていこう」との呼びかけを受け、地区労連や教職員組合などの民主団体と共同しながら立ち上げた「子どもたちの幸せを願う教育の会」の取り組みの報告である。

討議では、「教育条件の課題を市民と共有することでの解決の可能性」・「市民と共有を実現する困難性」が多く発言されていた。

2 「36 協定の締結について～ R 町の場合」 報告者 礼文町立礼文小学校 早矢仕郁雄

宗谷管内のとある町・R 町の学校で行われた 36 協定の締結に関するさまざま課題を含む顛末の報告である。

交流では、道立・市町村立の 36 協定締結に関する実態の交流がされ、学習会を開き、民主的に過半数代表者の選出手続きが行われている町村もあるが、事務職員が半ば当て職のように過半数代表者を押し付けられている学校もある実態が交流された。

共同研究者からは「自分たちの働き方・時間外労働については、興味を持つ方が増えてきたように思う。これらについて、教職員全体で考えていく必要があるだろう」と発言があった。

3 「釧路管内における学校給食費の状況」 報告者 釧路町立富原中学校 西山正一

釧路管内の小中学校における学校給食費無償の広まりを報告するレポートである。

平成 30 年度より白糠町で始まった無償化を皮切りに、管内町村で学校給食費無償となっていき、修学旅行費無償やテスト代・教材費補助が広がっている。一方、管内で一番人口の多い釧路市の動きの無さが目立っているとのことである。「居住地によって、義務教育 9 年間で子ども 1 人につき 40 万円以上の保護者負担に違いがあることは望ましいことだろうか」と報告者は述べる。

交流では各市町村や道立高校定時制・特別支援学校の給食費負担の状況が交流された。